

## 「四日市のまちづくりと市民活動に関する調査」集計結果の概要

### 1. 調査の概要

- 1) 調査名称：「四日市のまちづくりと市民活動に関する調査」
- 2) 調査対象地域：三重県四日市市全域
- 3) 調査対象者：2019年6月現在で四日市市に居住し選挙人名簿に記載されている25歳～74歳の住民
- 4) サンプル数：3000票
- 5) 抽出方法：選挙人名簿を用いた系統抽出法による
- 6) 調査主体：名古屋大学社会学研究室・四日市大学三田研究室
- 7) 調査方法：郵送による配票・回収
- 8) 調査実施時期：2019年8月7日から9月末
- 9) 有効回収数：1144票  
有効回収率：38.1%
- 10) 調査費用：科学研究費補助金(課題番号：18H00925)

### 2. 集計結果の概要と見方

次頁以下に単純集計結果を示した。有効回答をもとにパーセンテージ・平均値を算出し、「○○%(n=△△)」(括弧内はその度数)というかたちで記した。設問・回答は見やすくするため編集を加えてあり、元のかたちから若干変更されているものもある。それぞれの設問に対しては簡単な説明を加えた。調査者の属性に関連するフェースシート項目については省略している。

**問1 あなたの性別はどちらですか。**

1. 男性 42.0% (n=480)	2. 女性 58.0% (n=664)
---------------------	---------------------

女性と比較して男性の方が回答率が低かったため、実際の性比にくらべて男性の回答数が少なくなっている。

**問2 あなたの年齢はつぎのどれに当たりますか。**

1. 25～29歳 3.9% (n=45)	2. 30～34歳 7.1% (n=81)	3. 35～39歳 9.0% (n=103)	4. 40～44歳 8.8% (n=101)	5. 45～49歳 10.8% (n=123)
6. 50～54歳 13.9% (n=159)	7. 55～59歳 10.8% (n=124)	8. 60～64歳 10.9% (n=125)	9. 65～69歳 12.2% (n=139)	10. 70～74歳 12.6% (n=144)

50歳代以降で回答率が高く、若い層では回答率が低くなる傾向がある。

**問3 四日市市と現在のお住まいには何年ほどお住まいですか。**

四日市市に約 ( 36.8 ) 年 → うち現在の住まいに約( 23.3 )年
---

↓  
**現在のお住まいに引っ越されて来た方にかがいます。**

【付問】直前にお住まいの場所はどちらでしたか。また、その引越しのきっかけは何でしたか。

1. おなじ地区内 20.0% (n=195)	2. 四日市市内 44.0% (n=429)	3. 三重県内 19.7% (n=192)
4. 県外 15.9% (n=155)	5. 国外 0.5% (n=5)	
1. 仕事のため 12.2% (n=116)	2. 結婚のため 26.0% (n=247)	3. 住み替えのため 45.6% (n=434)
4. 家族の都合で 14.9% (n=142)	5. その他 1.3% (n=12)	

市内居住の平均年数は平均 37 年近く、現住地の居住年数も 23 年に及んでいて、それぞれ長くなっている。のちに見るように、地元出身者が多く、雇用も比較的安定しているためか、定住化が進んでいると言えよう。引っ越しをして来た人に前住地をたずねたところ、市内からが 2/3 近くと多く、県外から越してくるケースは 15.9%と比較的少なかった。

問4 あなたは、次にあげるようなことにどのくらい愛着を感じていますか。a)とb)のそれぞれについて、もっとも近い番号を選んでください。

	強い愛着 がある	ある程度 愛着があ る	どちらと もいえな い	あまり愛 着はない	まったく 愛着はな い
a) 現在お住まいの 地域	16.1% (n=184)	56.3% (n=643)	16.6% (n=190)	8.3% (n=95)	2.7% (n=31)
b) 現在のお仕事	15.7% (n=131)	50.8% (n=425)	20.8% (n=174)	9.9% (n=8.3)	2.8% (n=23)

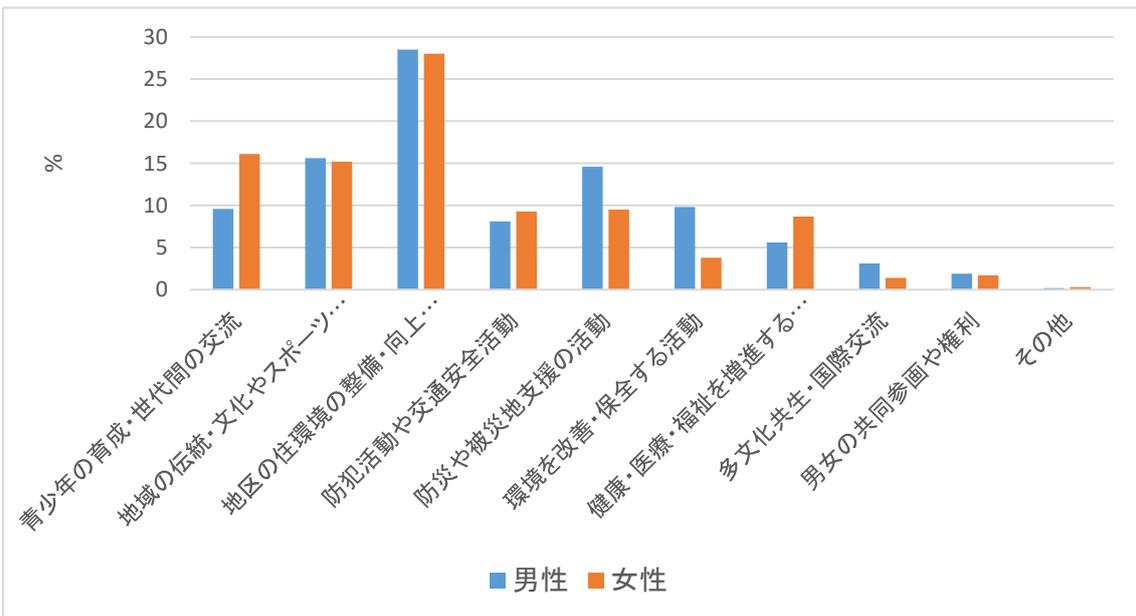
居住地域、現在の仕事への愛着に関しては、ともに高めの分布となっている。

問5 あなたは、どのような種類のまちづくり活動に参加したことがありますか【a)～j)について数字に○をしてください】。また、参加したことがある場合は、①この1年間の活動の有無、②活動の成果に満足しているか、についてお答えください。

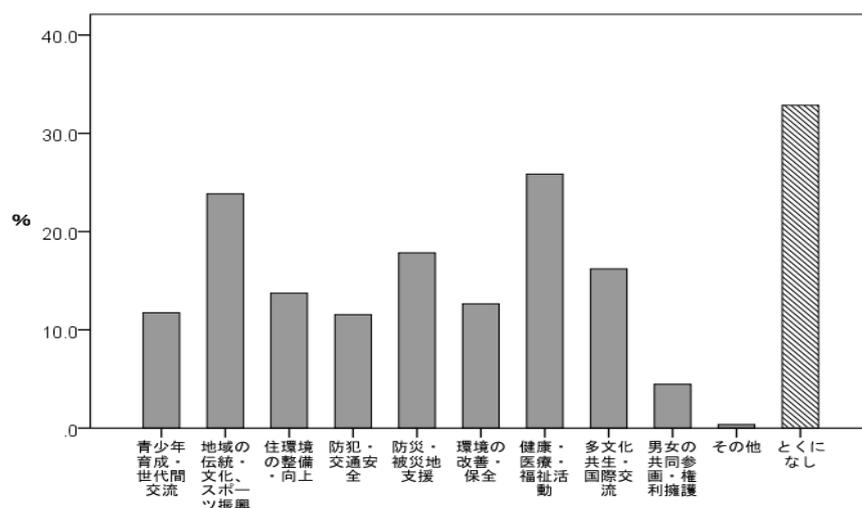
	以下のまちづくり 活動に参加した経 験がある	(経験者のうち)① この1年間に活動 したことがある	(経験者のうち)② 活動の成果に満 足している
a) 青少年の育成・ 世代間の交流	38.8% (n=442)	34.6% (n=153)	38.3% (n=169)
b) 地域の伝統・文化や スポーツの振興	27.3% (n=311)	56.6% (n=176)	49.2% (n=153)
c) 地区の住環境の 整備・向上活動	39.7% (n=451)	71.6% (n=323)	50.3% (n=227)
d) 防犯活動や交通安全 活動	19.7% (n=224)	45.1% (n=101)	42.0% (n=94)
e) 防災や被災地支援の 活動	20.2% (n=230)	57.8% (n=133)	42.2% (n=97)
f) 環境を改善・ 保全する活動	10.8% (n=122)	59.0% (n=72)	41.0% (n=50)
g) 健康・医療・福祉 を増進する活動	12.2% (n=139)	61.2% (n=85)	47.5% (n=66)
h) 多文化共生や国際交 流に関する活動	4.5% (n=51)	47.1% (n=24)	37.3% (n=19)
i) 男女の共同参画や権 利にかかわる活動	4.9% (n=56)	35.7% (n=20)	30.4% (n=17)

j) その他 ( )	0.4% (n=4)	75.0% (n=3)	50.0% (n=2)
---------------	---------------	----------------	----------------

まちづくりへの参加の有無についてたずねたところ、表上側の「地縁型」の活動については経験率が高かった。これに対して、表下側の「テーマ型」の活動については1割内外と相対的に低くなっている。「この1年間に活動した」割合は各ジャンルで比較的高いが、「青少年育成・世代間交流」でやや低いのは、子育てを終えた世代で活動水準が下がるためであろう。まちづくりの活動は必ずしも自分自身のためにおこなう行為ではないが、活動から満足を得ている割合はおおむね4割内外に達している。



最近1年以内に参加した活動について、男女別にみたものが上の図である。男女とも地縁的な活動への参加が多い点で共通している。「防災や被災地支援の活動」「環境を改善・保全する活動」「多文化共生・国際交流」では男性が相対的に多く、「青少年の育成・世代間交流」「健康・医療・福祉」では女性が相対的に多い。



上の図は、問 5 の各項目について「時間に余裕があれば参加してみたい活動はどれですか。」(複数回答)とたずねた結果の回答を求めた結果をグラフに表したものである。ここでは、「健康・医療・福祉を増進する活動」がもっとも高い割合(25.8%[N=284])を示していて、高齢化にともないこの分野への関心が高まっていることが分かる。3位に「防災活動・被災地支援」(17.8%[N=196])が入っており、4位に「多文化共生・国際交流」16.2%[N=178]が入っていることも注目される。実際におこなっている活動に比べてテーマ型活動への関心が相対的に高いことが示されており、今後に期待がもてる結果である。

**問 6 自由に使える時間が今より増えたら、あなたは何をしたいと思いますか。次の a) ~ f) についてお答えください。**

	とても したいと思う	ある程度 したいと思う	あまりしたいとは思わない	したいとは思わない
a) 仕事や能力開発	16.4% (n=175)	47.3% (n=506)	22.2% (n=237)	14.2% (n=152)
b) ボランティア活動 やNPO活動	5.4% (n=58)	37.2% (n=399)	39.0% (n=418)	18.5% (n=198)
c) 地域での交流や 自治会活動	2.5% (n=27)	30.0% (n=321)	44.6% (n=477)	22.8% (n=244)
d) 趣味や娯楽	49.9% (n=551)	43.7% (n=483)	3.7% (n=41)	2.7% (n=30)
e) 家族・友人と過ごす	48.3% (n=539)	47.4% (n=519)	2.9% (n=32)	1.5% (n=16)
f) 休息をとる	47.7% (n=516)	44.8% (n=485)	5.6% (n=61)	1.8% (n=20)

自由な時間が増えた場合にしたいこととしては、「趣味や娯楽」「家族や友人と過ごす」「休息をとる」など私的な項目が多い。しかし社会貢献関連の活動についても3~4割の人に意欲がみられることに注目したい。

**問7 あなたは、つぎにあげる選挙の投票にどのくらい参加していますか。**

	必ず投票に行っている	できるだけ投票に行っている	あまり投票に行かない	行ったことがない
a) 国政選挙	57.2% (n=646)	28.0% (n=316)	11.9% (n=135)	2.9% (n=33)
b) 地方選挙	56.2% (n=637)	28.6% (n=324)	12.0% (n=136)	3.3% (n=37)

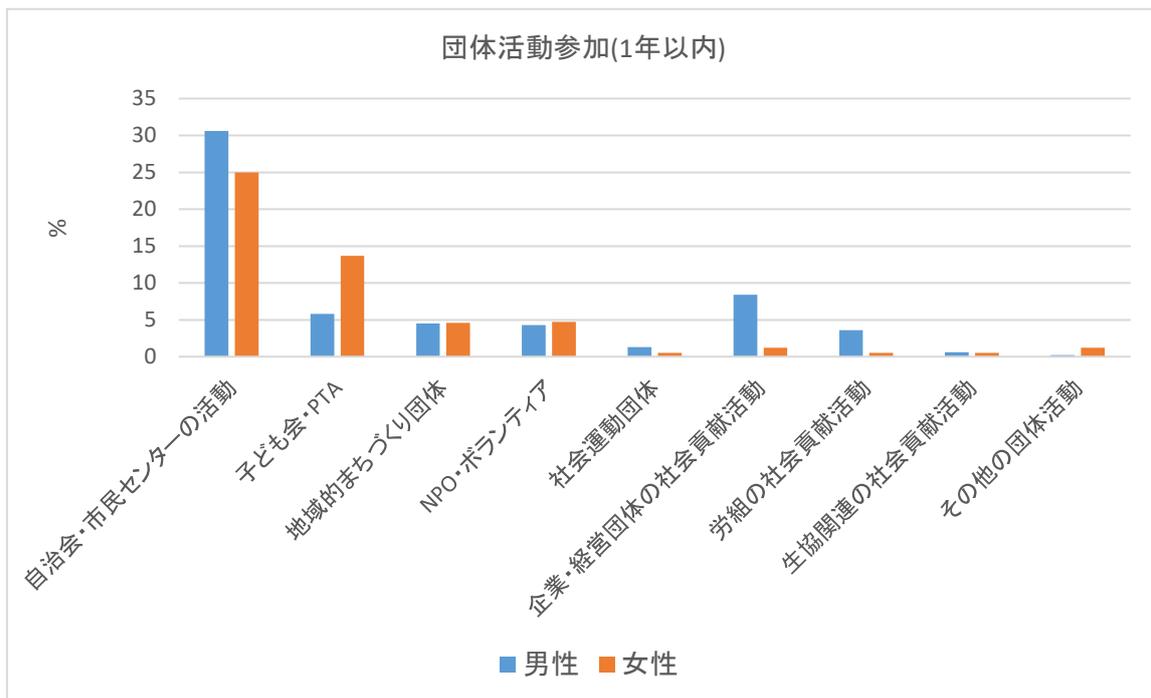
投票行動については国政選挙・地方選挙とも「必ず投票に行っている」人が過半数に達していた。

**問8 次の a) ~ i) について、メンバーとして活動に参加したことがある団体はありますか。また、参加している場合、①この1年間に活動しましたか、②その活動を通じて新しい友人ができましたか。**

	以下の団体の活動に参加した経験がある	(経験者のうち)①この1年間に活動したことがある	(経験者のうち)②活動を通じて新しい友人ができた
a) 自治会や地区市民センターの会合・活動	47.1% (n=529)	58.0% (n=307)	29.5% (n=156)
b) 子ども会の活動、PTAの役員・委員としての活動	36.1% (n=404)	28.9% (n=117)	37.0% (n=150)
c) 地域的なまちづくり団体(上のa)・b)以外のもの	7.3% (n=82)	62.2% (n=51)	45.1% (n=37)
d) NPO・ボランティア団体	7.1% (n=79)	64.6% (n=51)	53.2% (n=42)
e) 社会運動団体	1.6% (n=18)	50.0% (n=9)	33.3% (n=6)

f) 企業や経営団体関連の社会貢献活動	7.8% (n=87)	54.0% (n=47)	19.5% (n=17)
g) 労働組合関連の社会貢献活動	5.3% (n=59)	33.9% (n=19)	16.9% (n=10)
h) 生活協同組合関連の社会貢献活動	1.7% (n=19)	31.6% (n=6)	21.1% (n=4)
i) その他	1.0% (n=12)	75.0% (n=9)	41.7% (n=5)

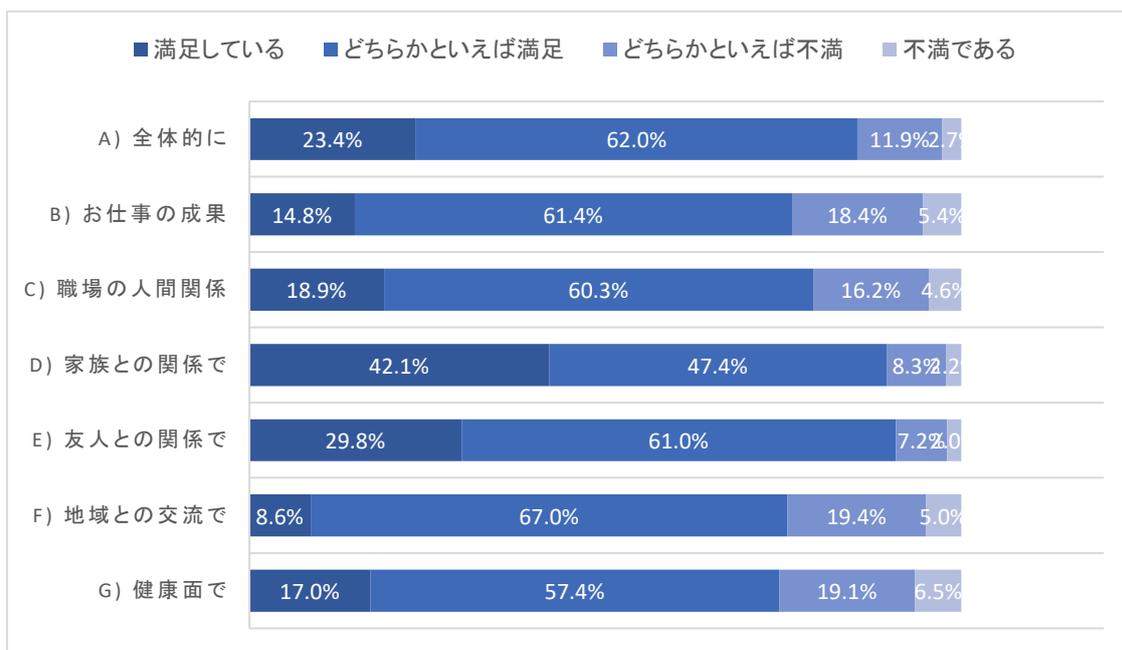
団体活動への参加をたずねたところ、経験率でもっとも高かったのが自治会や地区市民センターの会合・活動であり、ついで子ども会、PTAの役員としての活動であった。1割に満たないものの、企業や経営団体関連の社会貢献活動、地域的なまちづくり団体、NPO・ボランティア団体、労働組合関連の社会貢献活動にも一定割合の参加経験がみられた。「地縁的なまちづくり団体」と「NPO・ボランティア団体」では活動を通じて「新しい友人」ができた割合が半数内外におよんでいて、ネットワーク形成を促す効果が高い。



上の図は男女別に1年以内の団体活動に参加している割合をみたものである。ここでは男性が、「自治会・地区市民センターの活動」「企業・経営団体の社会貢献」「労組の社会貢献活動」などで相対的に高くなっている。

問9 あなたは現在の生活について、どの程度満足していますか。

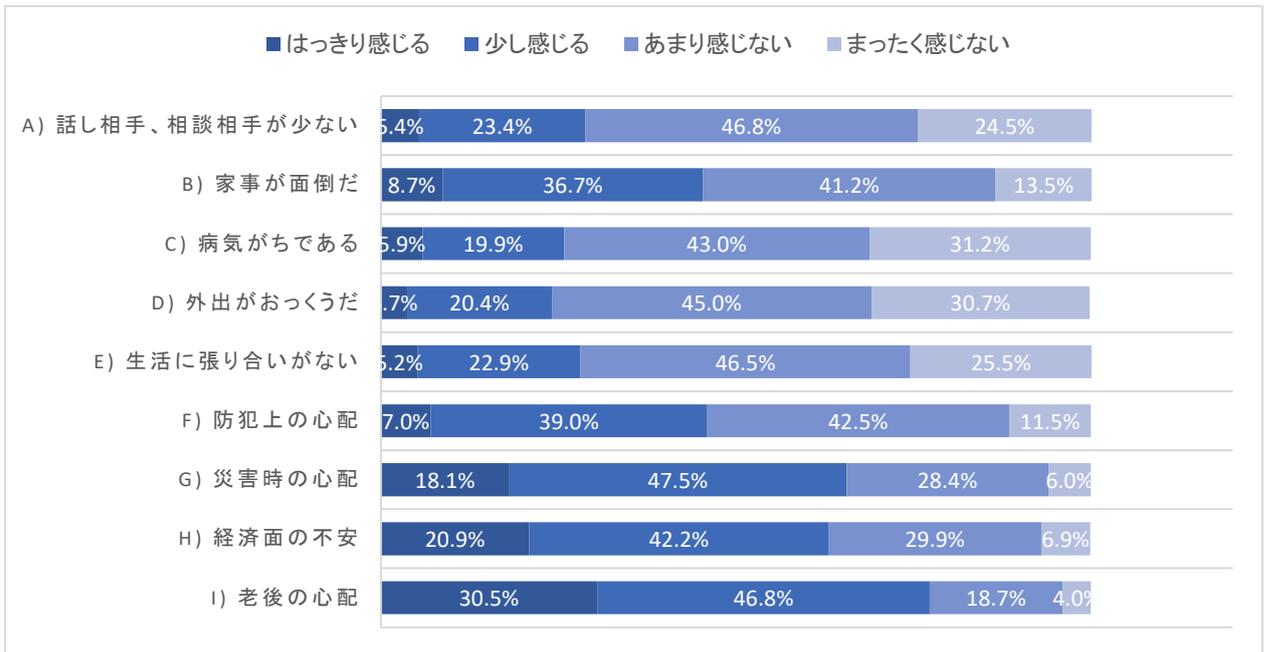
	満足している	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満である
a) 全体的に	23.4% (n=261)	62.0% (n=693)	11.9% (n=133)	2.7% (n=30)
b) お仕事の成果	14.8% (n=126)	61.4% (n=523)	18.4% (n=157)	5.4% (n=46)
c) 職場の人間関係	18.9% (n=157)	60.3% (n=502)	16.2% (n=135)	4.6% (n=38)
d) 家族との関係で	42.1% (n=462)	47.4% (n=521)	8.3% (n=91)	2.2% (n=24)
e) 友人との関係で	29.8% (n=330)	61.0% (n=676)	7.2% (n=80)	2.0% (n=22)
f) 地域との交流で	8.6% (n=94)	67.0% (n=736)	19.4% (n=23)	5.0% (n=55)
g) 健康面で	17.0% (n=190)	57.4% (n=643)	19.1% (n=214)	6.5% (n=73)



生活満足度についてたずねた項目では全体的に満足寄りの回答分布となっていた。最も満足度の高いカテゴリーを見ると、「家族との関係で」について「友人との関係で」が多く、「地域との交流で」はやや低くなっていた。

**問 10 現在生活するうえで具体的にお困りのことがありますか。**

	はっきり 感じる	少し感じる	あまり 感じない	まったく 感じない
a) 話し相手、相談相手が少ない	5.4% (n=60)	23.4% (n=262)	46.8% (n=524)	24.5% (n=274)
b) 家事が面倒だ	8.7% (n=97)	36.7% (n=411)	41.2% (n=461)	13.5% (n=151)
c) 病気がちである	5.9% (n=66)	19.9% (n=223)	43.0% (n=482)	31.2% (n=350)
d) 外出がおっくうだ	3.7% (n=41)	20.4% (n=229)	45.0% (n=505)	30.7% (n=346)
e) 生活に張り合いがない	5.2% (n=58)	22.9% (n=257)	46.5% (n=522)	25.5% (n=286)
f) 防犯上の心配	7.0% (n=78)	39.0% (n=438)	42.5% (n=477)	11.5% (n=129)
g) 災害時の心配	18.1% (n=203)	47.5% (n=533)	28.4% (n=318)	6.0% (n=67)
h) 経済面の不安	20.9% (n=235)	42.2% (n=474)	29.9% (n=336)	6.9% (n=78)
i) 老後の心配	30.5% (n=343)	46.8% (n=527)	18.7% (n=210)	4.0% (n=45)

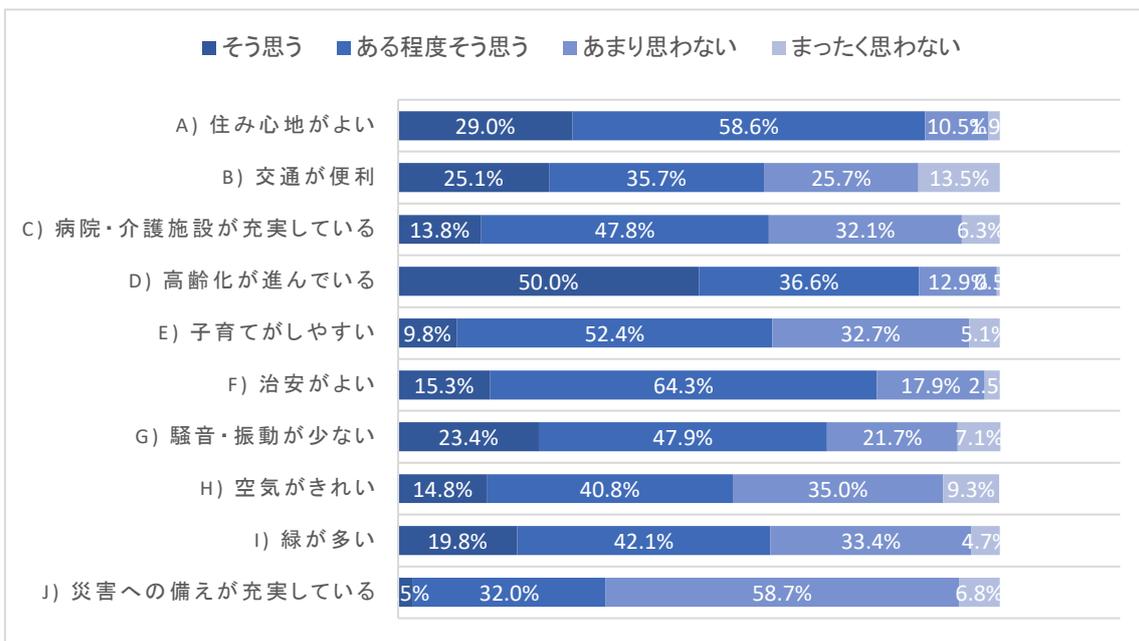


生活上の困りごとについてたずねた項目でもっとも高かったのは、「老後の心配」であった。現状で「病気がちである」「外出がおっくうだ」「家事が面倒だ」と答えている人はさほど多くないが、将来の生活は心配なのであろう。「経済面の不安」「災害時の不安」を感じている人も高い割合に上っていた。

#### 問 11 お住まいの地域の生活環境についてうかがいます。

	そう思う	ある程度 そう思う	あまり 思わない	まったく 思わない
a) 住み心地がよい	29.0% (n=326)	58.6% (n=659)	10.5% (n=118)	1.9% (n=21)
b) 交通が便利	25.1% (n=282)	35.7% (n=401)	25.7% (n=289)	13.5% (n=152)
c) 病院・介護施設が充実している	13.8% (n=155)	47.8% (n=537)	32.1% (n=361)	6.3% (n=71)
d) 高齢化が進んでいる	50.0% (n=562)	36.6% (n=411)	12.9% (n=145)	0.5% (n=6)
e) 子育てがしやすい	9.8% (n=107)	52.4% (n=574)	32.7% (n=358)	5.1% (n=56)
f) 治安がよい	15.3% (n=172)	64.3% (n=721)	17.9% (n=201)	2.5% (n=28)

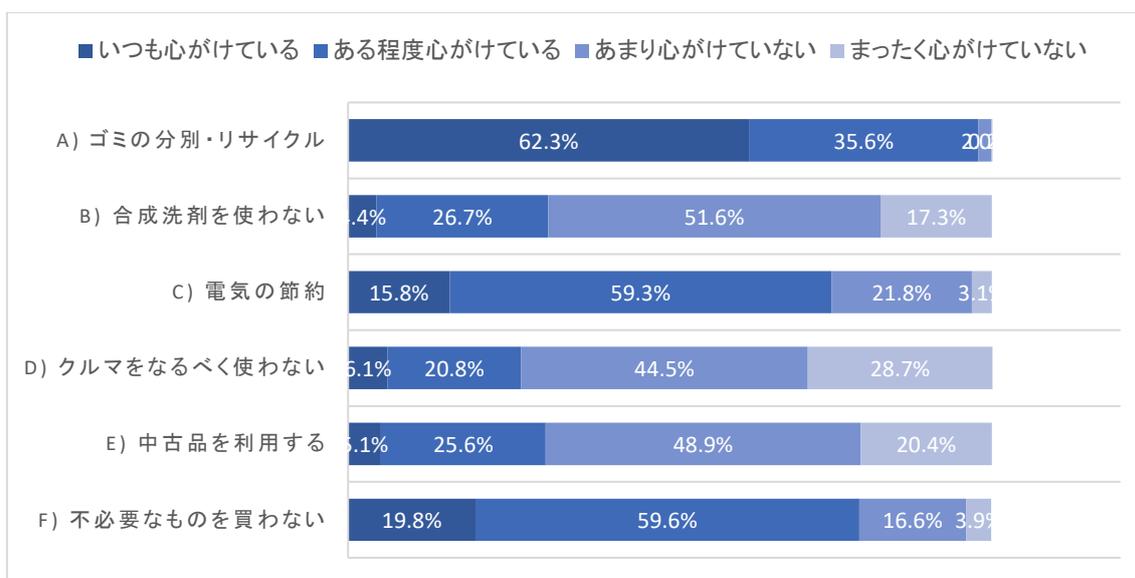
g) 騒音・振動が少ない	23.4% (n=263)	47.9% (n=539)	21.7% (n=244)	7.1% (n=80)
h) 空気がきれい	14.8% (n=167)	40.8% (n=459)	35.0% (n=394)	9.3% (n=105)
i) 緑が多い	19.8% (n=223)	42.1% (n=474)	33.4% (n=376)	4.7% (n=53)
j) 災害への備えが充実している	2.5% (n=28)	32.0% (n=359)	58.7% (n=658)	6.8% (n=76)



地域の瀬水克環境についてたずねたところ、全体として「住み心地のよさ」「治安のよさ」「子育てのしやすさ」は高く評価されていた。他方居住地区レベルでも、高齢化は進んでいると認知されているようである。環境改善が進むなか、「空気がきれい」は過半数が高めの評価であるが、4割の人が否定的でなお評価が分かれている。これにたいして「振動・騒音」は高めの評価となっている。「災害への備え」についてはもっとも評価が低くなっている。

問 12 あなたは日ごろ以下のようなことを心がけていますか。

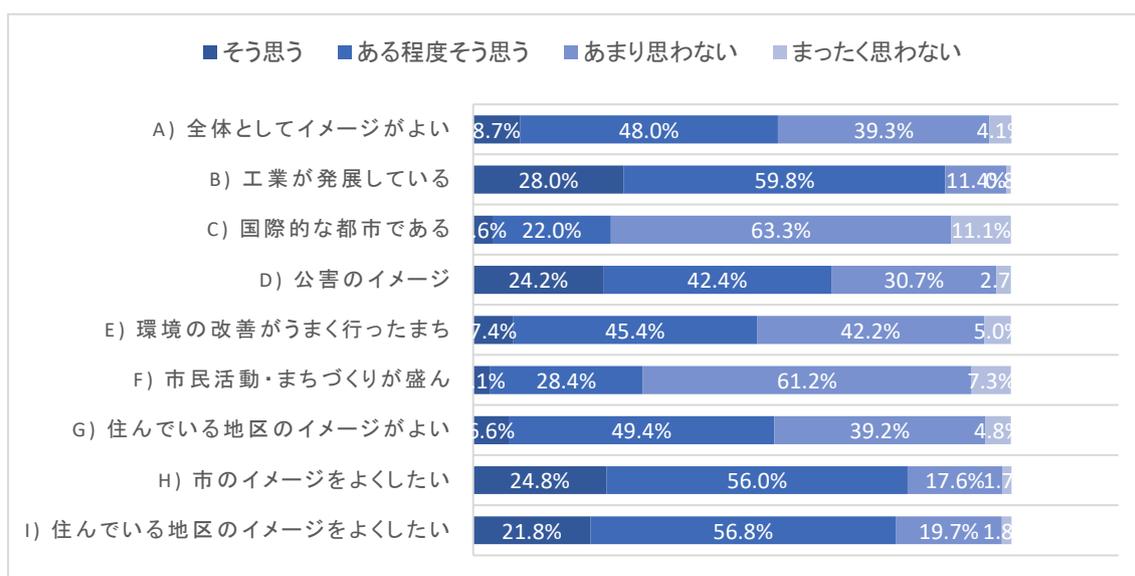
	いつも 心がけている	ある程度 心がけている	あまり 心がけていない	まったく 心がけていない
a) ゴミの分別・リサイクル	62.3% (n=702)	35.6% (n=401)	2.0% (n=22)	0.2% (n=2)
b) 合成洗剤を使わない	4.4% (n=49)	26.7% (n=299)	51.6% (n=577)	17.3% (n=193)
c) 電気の節約	15.8% (n=178)	59.3% (n=668)	21.8% (n=245)	3.1% (n=35)
d) クルマをなるべく使わない	6.1% (n=68)	20.8% (n=233)	44.5% (n=498)	28.7% (n=321)
e) 中古品を利用する	5.1% (n=57)	25.6% (n=288)	48.9% (n=549)	20.4% (n=229)
f) 不必要なものを買わない	19.8% (n=223)	59.6% (n=671)	16.6% (n=187)	3.9% (n=44)



環境に配慮する行動について尋ねた項目で最も配慮されていたのは、「ゴミの分別・リサイクル」で、ほとんどの人がなんらか心がけていた。「不必要なものを買わない」「電気の節約」も多くの方が心がけていた。「合成洗剤を使わない」「中古品を利用する」となると「クルマをなるべく使わない」人の割合は少なくなって、市域の広い四日市市では難しいようだ。

問 13 四日市市のイメージについてうかがいます。

	そう思う	ある程度 そう思う	あまり 思わない	まったく 思わない
a) 全体としてイメージがよい	8.7% (n=98)	48.0% (n=541)	39.3% (n=443)	4.1% (n=46)
b) 工業が発展している	28.0% (n=316)	59.8% (n=676)	11.4% (n=129)	0.8% (n=9)
c) 国際的な都市である	3.6% (n=41)	22.0% (n=248)	63.3% (n=713)	11.1% (n=125)
d) 公害のイメージ	24.2% (n=273)	42.4% (n=478)	30.7% (n=346)	2.7% (n=31)
e) 環境の改善がうまく行った まち	7.4% (n=83)	45.4% (n=513)	42.2% (n=477)	5.0% (n=56)
f) 市民活動・まちづくりが盛ん	3.1% (n=35)	28.4% (n=320)	61.2% (n=690)	7.3% (n=82)
g) 住んでいる地区のイメージがよ い	6.6% (n=75)	49.4% (n=559)	39.2% (n=444)	4.8% (n=54)
h) 市のイメージをよくしたい	24.8% (n=281)	56.0% (n=634)	17.6% (n=199)	1.7% (n=19)
i) 住んでいる地区のイメージをよくした い	21.8% (n=246)	56.8% (n=642)	19.7% (n=223)	1.8% (n=20)



市や地区のイメージをたずねた項目については、よいイメージをもつ人がやや多いもの

の、もたない人とほぼ拮抗していた。イメージを「よくしたい」と答えた人が圧倒的に多かったのはこうした事情と関連しているだろう。工業都市としてのイメージが強いのに対して、「国際的な都市」「市民活動・まちづくりが盛ん」というイメージは弱いようである。公害のイメージはなお強く残り、「環境改善がうまく行ったまち」についても見解はほぼ半々に分かれている。

**問 14 あなたは、ふだんいっしょにお茶や食事を楽しむ友人が何人くらいいますか。**

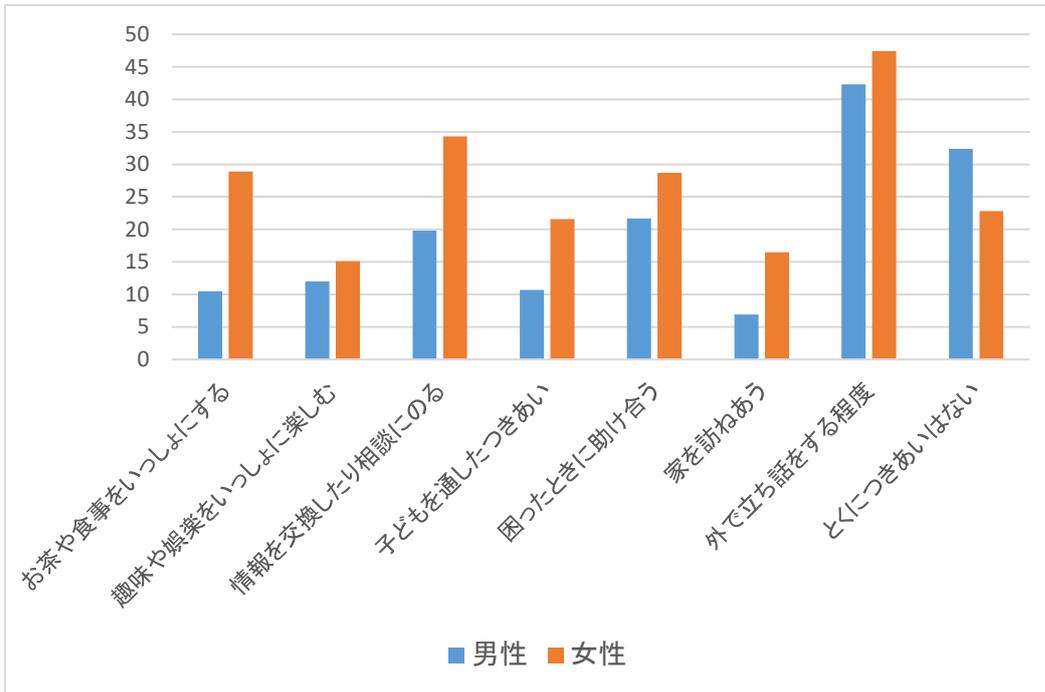
1.	いない 14.7%(n=167)	2.	1～2人 27.4%(n=312)	3.	3～5人 41.1%(n=467)
4.	6～9人 10.6%(n=120)	5.	10人以上 6.2%(n=72)		

親しい友人の人数をたずねたところ、「3～5人」がもっとも多く、ついで「1～2人」が続いていた。「いない」人は7人に1人程度であった。多い人と少ない人で差は大きいですが、全体として人間関係は希薄ではない。

**問 15 あなたは、ご近所の親しい方とはどのようなおつきあいをされていますか。**

1.	お茶や食事をいっしょにする 21.2%(n=241)	2.	趣味・娯楽をいっしょに楽しむ 13.8%(n=157)
3.	情報を交換したり相談にのる 28.2%(n=321)	4.	子どもを通したつきあい 17.1%(n=194)
5.	困ったときに助け合う 25.8%(n=293)	6.	家を訪ねあう 12.5%(n=142)
7.	外で立ち話をする程度 45.3%(n=515)	8.	とくにつきあいはない 26.8%(n=305)

近所の親しい人とのつきあいについて複数回答でたずねたのが問 15 である。「とくにつきあいはない」を除くと 3/4 の人がなんらかのつきあいをしていることになる。「外で立ち話しをする程度」という軽いつきあいが最も多くなるのは当然だが、「情報を交換したり相談にのる」「困ったときに助け合う」もそれぞれ 1/4 強の人が行っている。



近所づきあいを性別で比較すると、「お茶や食事をいっしょにする」「情報を交換したり相談にのる」「子どもを通したつきあい」「困ったときに助け合う」「家を訪ねあう」など多くの項目で女性の方がしている割合が高かった。

**問 16 お住まいの地域に、職場や仕事関係で知り合った知人・友人の方はいますか。**

1. いない	2. 1～2人いる	3. 3～5人いる	4. 6～9人いる
39.5% (n=447)	24.6% (n=279)	18.8% (n=213)	5.2% (n=59)
5. 10人以上	6. 分からない	7. 仕事をしたことがない	
8.5% (n=96)	2.8% (n=32)	0.5% (n=6)	

居住地域に職場関係の知人・友人がいるかどうかをたずねた項目では、6割近くの人がいるという結果となった。3人以上いる人の割合も3割以上に上っていて、地域にもつ「職縁」が比較的強いと言えよう。

**問 17 外国籍(日本人以外)の友人・親しい方はいらっしゃいますか。**

	いない	1人	2~3人	数人以上いる
a) 職場関係に	86.6% (n=973)	5.5% (n=62)	4.5% (n=50)	3.4% (n=38)
b) 住んでいる地域に	89.5% (n=1010)	4.9% (n=55)	3.7% (n=42)	1.9% (n=22)
c) 親族関係で	95.0% (n=1072)	2.8% (n=32)	0.9% (n=10)	1.2% (n=14)
d) インターネット上で	96.0% (n=1080)	0.8% (n=9)	1.3% (n=15)	1.9% (n=21)

外国籍の親しい人をもつ社会的文脈で、もっとも多いのが職場関係であり、ついで居住地域であった。その割合が比較的少ないのは、職場にせよ地域にせよ、外国籍の人が特定の場に集中しているためと考えられる。

**【付問 1】 一番親しい人の国籍は( )**

親しい人の国籍が多かったのは、中国 20.1%(n=36)、韓国 12.8%(n=23)、アメリカ 10.6%(n=19)、ブラジル 9.5%(n=17)、フィリピン 7.8%(n=14)、タイ 5.6%(n=10)、ベトナム 4.5%(n=8)、ペルー、ネパールがそれぞれ 2.8%(n=5)であった。アジア諸国の比重が高くその多国籍化が目立つ結果となった。

↓

**(いる人に)【付問 2】 その方とはどのような付き合いをされていますか(複数回答)。**

1. お茶や食事をいっしょにする 26.6%(n=54)	2. 趣味・娯楽をいっしょに楽しむ 14.3%(n=29)
3. 情報を交換したり相談にのる 41.4%(n=84)	4. 子どもを通したつきあい 16.3%(n=33)
5. 困ったときに助け合う 21.2%(n=43)	6. 家を訪ねあう 9.4%(n=19)
7. 立ち話をする程度 32.0%(n=65)	

外国人の友人がいる人につきあいの内容をたずねたところ、もっとも多かったのが「情報

を交換したり相談にのる」であった。これは異国で生活している外国人の友人に情報を求められたり相談されることが多いためであろう。「立ち話をする程度」が多いのは当然として、「お茶や食事をいっしょにする」「困ったときに助け合う」つきあひも少なくなかった。

**問 18 身近な人・知り合いに以下のような人はおられますか。【重複してもけっこうです】**

	いない	1人	2～3人	数人以上いる
a) 市民活動・まちづくりに熱心な人	65.8% (n=744)	15.9% (n=180)	12.2% (n=138)	6.1% (n=69)
b) 環境改善活動に熱心な人	79.5% (n=898)	10.4% (n=117)	6.7% (n=76)	3.4% (n=38)
c) 公害問題で被害を受けた方	93.1% (n=1045)	5.3% (n=60)	1.2% (n=14)	0.4% (n=4)
d) 自治会の役員経験者(組長は除いて)	47.4% (n=536)	22.9% (n=259)	17.3% (n=195)	12.4% (n=140)

まちづくり参加に影響を与えそうなキーパーソンの知り合いが何人いるかたずねたところ、自治会役員経験者がもっとも多く、市民活動・まちづくりに熱心な人が知り合いにいる人も約 1/3 いた。環境まちづくりに影響を与えると考えられる「環境改善活動に熱心な人」が知り合いにいる人も約 1/5 ほどいた。

**問 19 東海・東南海地震の発生に備えて何かされていることがありますか。【あてはまる数字をすべて○でかこんでください】**

	ご家庭で	近隣や 自治区で	勤め先で	NPO・ボラン ティア活動で	行政や関連団 体を通じて
a) 備えていることがある	66.4% (n=756)	27.5% (n=313)	26.6% (n=303)	0.4% (n=4)	2.0% (n=23)
b) 今後自分自身も取り組みたい	70.5% (n=800)	26.9% (n=305)	12.9% (n=146)	2.1% (n=24)	3.8% (n=43)
c) 今後取り組みを強めてほしい	25.5% (n=290)	58.0% (n=659)	16.8% (n=191)	6.1% (n=69)	30.2% (n=343)

災害の中でももっとも懸念されるのが東海・東南海地震であろう。家庭でなんらかの備えをしている人の割合は約 2/3、近隣・自治会と勤務先で備えている人はそれぞれ 1/4 強に上っている。今後の取り組みでの要望先としては、やはり近隣・自治会がもっとも多く行政・関連団体がそれに次ぐ。コミュニティ防災への期待が高くなっているようである。

(以下フェースシート項目につき省略)

### 3. 調査結果のより詳細な内容について

2020 年 11 月におなじく研究室 HP に掲載する予定の『「四日市市のまちづくりと市民活動に関する調査」報告書』ファイルをご覧ください。